

報 告

園芸療法科目履修生による園芸活動の現状 — 卒業生へのアンケート調査から —

Current status of taking courses in horticulture therapy — Questionnaire survey targeting graduates —

佐竹 勝¹⁾ 中裕 俊介¹⁾ 嶋野 広一¹⁾ 珠数 美穂²⁾

要 約： 本学のカリキュラムの特徴の一つに園芸療法がある。所定の8単位を履修し、資格申請すれば、全国大学実務教育協会から「園芸療法士」の認定証が交付される¹⁾。国家資格ではないが、リハビリテーション領域における有効活用が期待される等、大学教育の付加価値的要素の高い科目として位置付けられている。本学では2006年の開学時より、全専攻を対象に園芸療法教育を行い、2012年3月の時点で121名が園芸療法士を取得し卒業した。今回、卒業生が園芸療法をどの程度役立てているのか園芸療法士資格取得者121名に対してアンケート調査を行い、その結果33名から回答を得た。決して多い数字ではないが、その活躍や、苦悩の様子が伺える貴重なデータであり、内容は新鮮であった。臨床現場における園芸活動の現状が浮き彫りになったことで、今後は、教育面へどう反映させるのか、また臨床現場へのサポート体制をどう具体化していくかについて模索していく予定である。

キーワード： 園芸療法、園芸活動、ガーデニング

はじめに

大阪河崎リハビリテーション大学では開設初年度より園芸療法科目を導入している。取得単位数は8単位。関連科目は、園芸療法（2単位）、園芸療法実習（2単位）、ガーデニング（2単位）、園芸論（2単位）、の4科目である。

大学側は、園芸療法士の資格（全国大学実務教育協会認定）を取得した卒業生がどこでどの程度活躍しているのか、その教育効果も含め大変気になっていた。

今回、園芸療法の実践普及と、今後の園芸療

法の教育に役立てることを目的として、卒業して臨床2年が経過した第一期、二期卒業生を対象に、1. 臨床において園芸療法を利用しているかどうか、2. 利用している場合の治療的意義（内容と効果）3. 実践普及に向けた障壁はどこにあるのか、4. 大学に対する卒業生のニーズ把握、についてアンケート調査を行ったので報告する。

対象

大阪河崎リハビリテーション大学を卒業した、第一期、二期生のうち園芸療法士の資格を取得し、病院・福祉施設などでリハビリテーション専門職として働いている理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を対象とした。

Masaru Satake

大阪河崎リハビリテーション大学
リハビリテーション学部 作業療法学専攻

E-mail: satakem@kawasakigakuen.ac.jp

1) 大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法学専攻

2) 大阪河崎リハビリテーション大学 非常勤講師

方法

アンケート用紙（資料）を作成し、就職先に返信封筒と共に郵送。返信されたアンケートのデータを集計した。

結果

1. 対象者 121 人のうち、33 人（27%）から回答を得た。回答を寄せた 33 人のうち園芸活動を行っている卒業生は 12 人（36.4%）であった。

(1) 職種の内訳：作業療法士 10 人 理学療法士 2 人 言語聴覚士 0 人

(2) 活動目的の内訳 ※複数回答

- ・治療として 10 人（83.6%）
- ・鑑賞目的で 8 人（66.7%）
- ・レクリエーションとして 4 人（33.3%）
- ・景観整備として 2 人（16.7%）

2. 卒業生が園芸活動で担当した対象者の疾患・性別・年齢を表 1、図 1 に示す。

表 1 対象者の疾患・性別 ※複数回答

疾患名	脳血管障害	9 人（75.0%）
	老年期障害	7 人（58.3%）
	整形疾患	5 人（41.7%）
	精神疾患	4 人（33.3%）
	発達障害	2 人（16.7%）
	内部疾患	2 人（16.7%）
	終末期	1 人（8.3%）
性別	男性のみ	3 人（25.0%）
	女性のみ	3 人（25.0%）
	男女とも	6 人（50.0%）

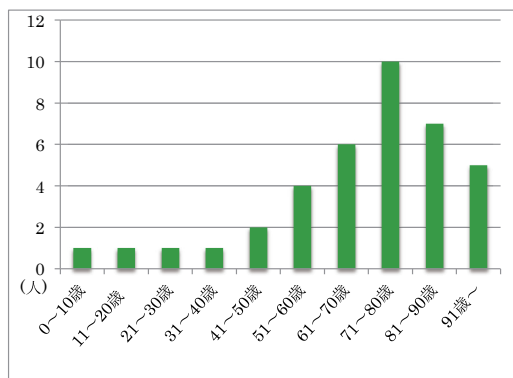


図 1 対象者の年齢

3. 卒業生が行っている園芸活動の内容を表 2 に示す。

表 2 園芸活動の内容 ※複数回答

活動頻度	年に数回	2 人
	月 1～3 回	1 人
	週 1～2 回	2 人
	週 3～4 回	4 人
	週 5～6 回	1 人
	週 7 回	2 人
活動時間	30 分	8 人
	30～60 分	5 人
	60～180 分	1 人
活用植物	野菜	9 人
	草花	6 人
	庭の樹木	3 人
	ハーブ類	1 人
活動内容	水やり	11 人（91.7%）
	収穫	9 人（75.0%）
	観察	9 人（75.0%）
	鑑賞	8 人（66.7%）
	散歩	7 人（58.3%）
	苗植え	7 人（58.3%）
	種まき	6 人（50.0%）
	除草	5 人（41.7%）
	土作り	5 人（41.7%）
	食べる	5 人（41.7%）
	施肥	4 人（33.3%）
	調理	3 人（25.0%）
	クラフト	2 人（16.7%）
	計画	1 人（8.3%）

4. 園芸活動による効果を感じている卒業生は、11 人で、実に 91.7% の高い割合であった。感じている効果の内訳を表 3 に示す。

表 3 園芸活動の効果 ※複数回答

効果の領域	具体的効果の内容
身体的効果 7 人（58.3%）	歩行距離の向上・安定
	活動性の向上
	巧緻動作や随意性の向上
精神的効果 10 人（83.3%）	意欲の向上・自発性の向上
	気分転換
	生活リズムの向上
	不穏行動の減少
	喜びや笑顔の増加
	周辺症状の軽減
社会的効果 5 人（41.7%）	スタッフとの会話の実現
	周りへの関心の増加
	役割活動の実践
	集団行動の実践
	協調性の向上

5. 園芸活動を行う過程で困ったことを図2に示す。

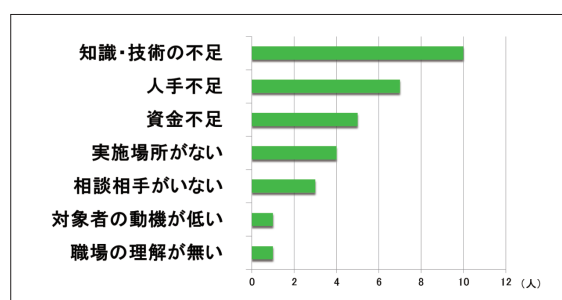


図2 園芸活動を行う過程で困っていること

6. 園芸療法を「業務として利用したい」と思うかを図3に示す。

今回のアンケート回答者33名中、13人(39.4%)が園芸療法を業務として「利用したい」、8人が利用しないと回答。

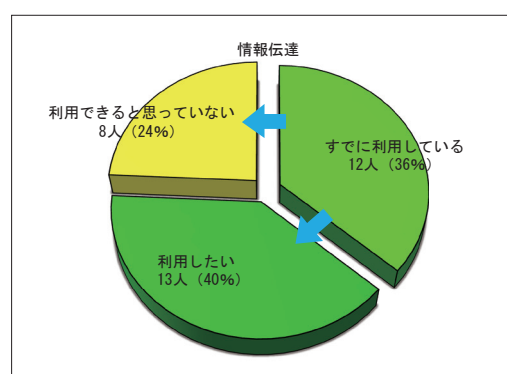


図3 園芸療法を「業務として利用したい」卒業生

7. 卒後サポートに対するニーズを図4に示す。

今回のアンケート回答者33名中、30人(90.9%)がサポートが欲しいと回答。

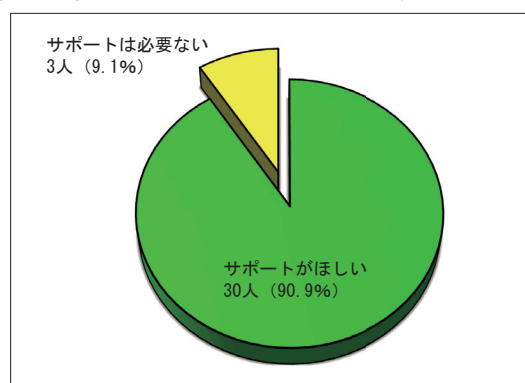


図4 園芸活動に関する卒後サポートのニーズ

8. 卒業生が大学に求めるサポートの内容を図5に示す。

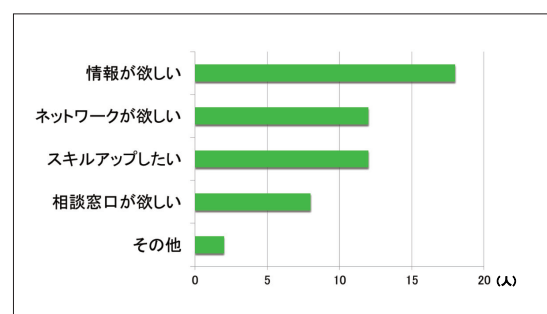


図5 卒後サポートの内容 ※複数回答

考察とまとめ

1. 卒業生に対するアンケート調査から次のような現状が把握出来た。

(1) 臨床現場における園芸活動の実施状況

アンケート回答者33名中、園芸活動を行っている卒業生は12名(36.4%)であった。職種の内訳は、作業療法士10名、理学療法士2名であった。

(2) 対象者と活動内容

対象疾患は、①脳血管障害、②老年期障害、③整形疾患、④精神障害の順であった。

活動内容は、週/3～4回、野菜・草花栽培が多く、作業内容は、水やり、鑑賞、収穫の順であった。

(3) 園芸活動による効果の有無

効果については、12名中11名が効果を実感していた。しかし、評価は主観の評価に基づくものが多く、臨床2年程度では科学的根拠の提出は困難と推測する。

(4) 活動で困っていること

①園芸の知識・技術不足、②人手不足、③資金不足、④場所が無い、の順であった。

(5) 園芸療法の業務への利用要望

すでに利用している12名に加えて、13名が「利用したい」と回答している。園芸療法を普及させていくにはこの人たちへの積極的サポー

トが欠かせない。

(6) 卒後サポートへのニーズ

回答を寄せた 33 名中、サポートニーズは 30 名 (90.9%) であった。内容は、①情報が欲しい、②スキルアップ、③ネットワークが欲しい、というものであった。

2. 卒業生の知識や技術の悩みを解消するためには、定期・不定期の勉強会や事例検討会を開催し、「園芸活動を実施している卒業生」がより効果を挙げ、「園芸活動を実施したいと思っている卒業生」が実際に行えるような支援をすることが、園芸療法の普及に役立つ近道と考える。
3. 在学中に受講する講義の中で、臨床応用できる園芸活動についても、理解を得て学習させることが必要である。
4. 今後は、卒業生が園芸活動の成果を研究・報告する場をつくり、それを発信、報告することが認知を広げ、園芸活動・園芸療法の普及に繋がるものと確信する。
5. 今後も定期的、継続的なアンケート調査を実施し、小まめな情報収集が園芸療法の普及発展に欠かせない。特に「園芸活動による効果」の具体的で科学的な検証、「効果を挙げるために工夫していること」の実践と検証が重要と考察する。
6. 今回の調査結果をふまえて、次年度は実践研究報告の場を設け、その成果を共有し、併せて問題点の解決を探る機会を具体化させたい。

謝辞

今回、アンケート調査を実施するにあたり、本学第一期、二期卒業生の園芸療法士資格取得者の皆様にご協力いただきました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

〔文献〕

- 1) 一般社団法人全国大学実務教育協会編：園芸系資格認定：定款・資格認定関係規定集，pp.117-126.
- 2) 佐竹 勝，長辻永喜：カナダ園芸療法研修記．大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007，1：93-106.
- 3) 珠数美穂，佐竹 勝，珠数 孝他：リハビリテーション専門職を目指す学生への園芸療法教育の実践．大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2010，4：75-82.
- 4) 杉原式穂，青山 宏，浅野雅子：園芸療法教育の検討 ―臨床実習による学生の精神的変化と高齢者イメージ変化―．専修大学北海道短期大学紀要 2006，39：1-15.
- 5) 吉長元孝，塩谷哲夫，近藤龍良 編 “園芸療法のすすめ” 創森社，東京，2003.
- 6) 松尾英輔：“園芸療法を探る”，グリーン情報，名古屋，2005.
- 7) 森本兼義，宮崎義文，平野秀樹 編集 “森林医学” 朝倉書店，東京，2009.
- 8) 豊原憲子，石神洋一，宮上佳江 “福祉のための農園芸活動” 農文協，東京，2007.

「園芸活動」に関するアンケート調査

各質問に当てはまる回答について①～⑩の番号を右側の四角内(回答記入欄)にお答えください。また、具体的な記述は記入欄・その他に回答を直接お書きください。

〇個人について

0. 氏名

1. 性別

① 男性 ② 女性

1

2. 年齢

① 21～25才 ② 26～30才 ③ 31～35才 ④ 36～40才 ⑤ 41～50才

2

3. 業務

① 理学療法士 ② 作業療法士 ③ 言語聴覚士

3

4. 経験年数

① 1年目 ② 2年目 ③ 3年目 ④ 4年目 ⑤ 5年目

4

5. 勤務施設におけるご自分の業務領域について(あてはまるものを全てを選んでください)

5-1 病気

① 急性期 ② 回復期 ③ 維持期 ④ 終末期 ⑤ 老年期障害

5-1

5-2 業務領域

① 身体障害(医療領域) ② 精神障害(医療領域) ③ 発達障害(医療領域) ④ 老年期(医療領域) ⑤ 身体障害(保険福祉介護領域) ⑥ 精神障害(保険福祉介護領域) ⑦ 発達障害(保険福祉介護領域) ⑧ 老年期(保険福祉介護領域)

5-2

6. 大学生の時の、園芸療法関連授業について

6-1 園芸療法関連の授業(ガーディング・園芸論・園芸療法論・園芸療法実習1,2)の単位取得について

① 全て取得した ② 一部取得した ③ 取得していない ④ その他

6-1

6-2 園芸療法士の資格

① 取得した ② 取得していない

6-2

6月3日

① 取得したい ② 取得したくない ③ その他() ④ 6-3

6-3

6-4 園芸療法士の資格が就職に有利にはたきましたか

① はい ② いいえ ③ どちらともいえない

6-4

〇園芸活動について

7. 業務において「園芸活動」を行ったことがありますか。

① ある (→ 8. へ) ② ない (→ 14. へ)

7

7. で、「ある」と答えた方にお聞きます。

8. 「園芸活動」をどのような形で行いましたか(複数回答)

① 患者・利用者の治療に活用した ② 患者・利用者のレクリエーションに活用した ③ 患者・利用者と一緒に観賞した ④ 部屋や廊下の景観整備をした ⑤ その他()

8

9. 主にどのような対象者に対して活用しましたか(複数回答)。

9-1 疾患 ① 脳血管疾患 ② 整形疾患 ③ 精神疾患 ④ 発達障害 ⑤ 老年期障害 ⑥ 内部疾患 ⑦ 終末期

9-1

具体的な疾患名が分かれればお書きください。

9-2 年齢

① 0～10才 ② 11～20才 ③ 21～30才 ④ 31～40才 ⑤ 41～50才 ⑥ 51～60才 ⑦ 61～70才 ⑧ 71～80才 ⑨ 81～90才 ⑩ 91才～

9-2

9-3 性別

① 男性 ② 女性

9-3

10. 「園芸活動」ではどのような植物を利用しましたか(複数回答)

10 ① 野菜 ② 草花 ③ ハーブ類 ④ 庭の樹木 ⑤ 観葉植物(室内) ⑥ なし

具体的植物名

- 138 -

11. 「園芸活動」での実施内容、1回あたりの時間、頻度をお答えください(複数回答)。

11-1 内容 ① 計画 ② 種まき ③ 苗植え ④ 水やり ⑤ 除草 ⑥ 施肥 ⑦ 土づくり ⑧ 収穫 ⑨ 調理加工 ⑩ 食べる ⑪ 販売 ⑫ クラフト ⑬ 観察 ⑭ 観賞 ⑮ さんぽ ⑯ その他()

11-2 時間 ① 30分以下/日 ② 30～60分/日 ③ 60～180分/日 ④ 終日(6時間程)

11-3 頻度 ① 週-〇回 ② 月-〇回 ③ 不定期(年-〇回程度)

④ 1回 ⑤ 2回 ⑥ 3回 ⑦ 4回 ⑧ 5回 ⑨ 6回 ⑩ 7回

12. 「園芸活動」を行うことで、患者・利用者に対してどのような効果があったと感じましたか(具体例があれば記入)。

12-1 身体的効果

12-2 心理・精神的効果

12-3 社会的効果

12-4 その他

13. 「園芸活動」を行う過程で、困ったことはありませんか(複数回答)。

① 知識・技術の不足 ② 人手不足 ③ 対象者の動機が低い ④ 実施時間が少ない ⑤ 資金不足 ⑥ 職場の理解がない ⑦ リスク管理ができない ⑧ 実施場所がない ⑨ 相談相手がいない ⑩ その他()

7. で、「ない」と答えた方にお聞きます。

14. 「園芸活動」を利用できない理由をお聞かせください(複数回答)。

14-1 自分 ① 興味がでない ② 指示がない ③ 知識技術の不足 ④ 効果が期待できない ⑤ リスク管理が難しい ⑥ 予算がない ⑦ 人手不足 ⑧ 自分の業務ではない ⑨ 場所がない ⑩ 時間がとれない ⑪ 環境が悪い ⑫ 相談相手がいない ⑬ その他()

14-2 組織 ① 興味がでない ② 指示がない ③ 知識技術の不足 ④ 効果が期待できない ⑤ リスク管理が難しい ⑥ 予算がない ⑦ 人手不足 ⑧ 他部門の業務である ⑨ 場所がない ⑩ 植物の維持管理ができない ⑪ その他()

15. 今後、「園芸活動」を業務に利用しようと思いますが

① 思う (→ 16、17へ) ② 思わない (→ 17、へ)

16. 利用しようと思っている方にお聞きます。

16-1 どのような疾患・障害の対象に活用したいと思いますか。

① 脳血管疾患 ② 整形疾患 ③ 精神疾患 ④ 発達障害 ⑤ 老年期障害 ⑥ 内部疾患 ⑦ 終末期

具体的な疾患名が分かれればお書きください。

17. 今後、大学の「園芸活動(療法)」に関する卒業サポートにどのような期待をしますか。

① 情報が欲しい ② スキルアップしたい ③ ネットワークが欲しい ④ 相談窓口が欲しい ⑤ 特にない ⑥ その他()

18. このまま、返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。 ご協力ありがとうございました。

- 139 -